

【その他の主な内容】

病院

紹介（知人、職員、関連法人、調剤薬局などからの紹介）
再雇用、定年退職後の再任用、復職
職業安定所、ハローワーク
県薬剤師会
募集リーフレットの作成・配布
本部採用

薬局

紹介（知人、職員、医薬品卸担当者、開設者などからの紹介）
再雇用、定年退職後の再任用、復職
ハローワーク
過去の実習生
就職説明会、会社説明会
職安、転職サイト利用者
親会社より出向
他店からの異動、派遣

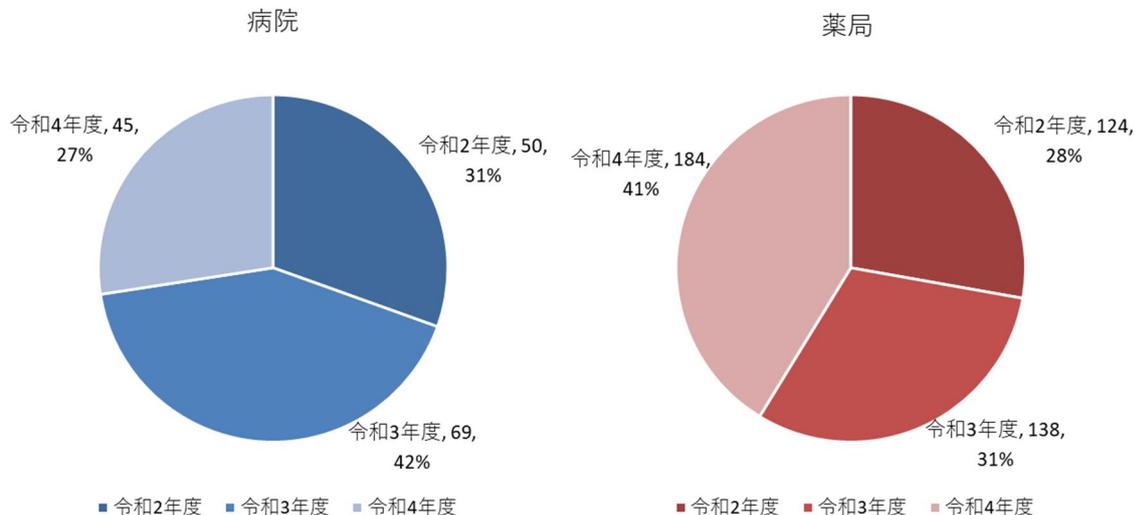
(7) 令和2年4月～令和5年3月の3年間に退職した薬剤師について

ア 退職年度

退職年度は栃木県では、病院は令和2年度が30.5%、令和3年度42.1%、令和4年度27.4%であった。また、薬局は令和2年度が27.8%、令和3年度30.9%、令和4年度41.3%であった。

病院では令和3年度の割合が、薬局では令和4年度の割合がやや高かった。

図表 79 令和2年4月～令和5年3月に退職した薬剤師の退職年度



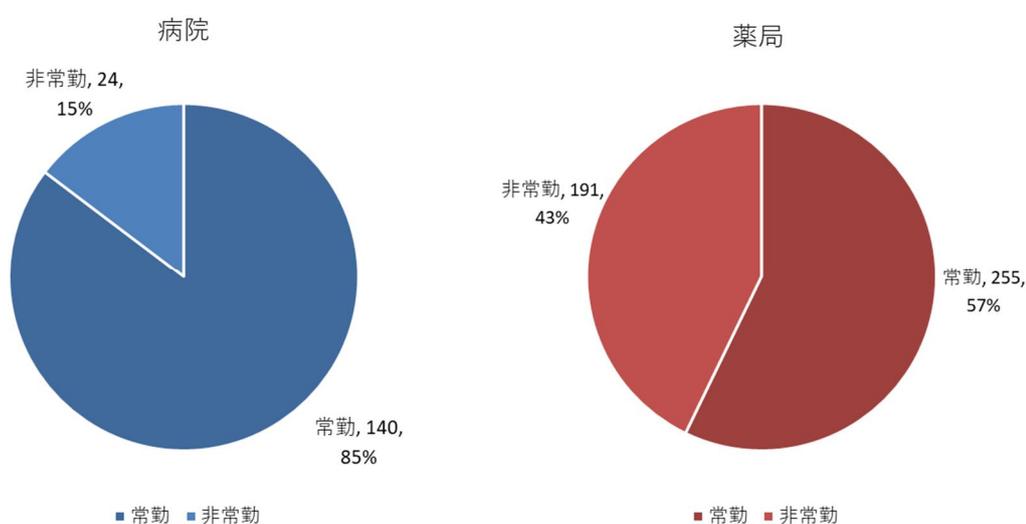
イ 雇用形態

雇用形態は、栃木県では病院は常勤が 85.4%、非常勤が 14.9%であり、常勤の割合が高かった。また、薬局では常勤が 57.2%、非常勤が 42.8%であり、ほぼ同様であった。

病院及び薬局のいずれも常勤の割合が高いが、病院の方が薬局よりも常勤の割合が高かった。

全国では、平成 30 年 4 月から令和 3 年 3 月の 3 年間に退職した薬剤師の雇用形態は、病院では常勤が 89.6%、非常勤が 10.3%、無回答が 0.1%であり、薬局では常勤が 61.5%、非常勤が 37.9%、無回答が 0.7%であった。栃木県は全国と比較して、概ね同様の傾向であった。

図表 80 令和 2 年 4 月～令和 5 年 3 月に退職した薬剤師の雇用形態



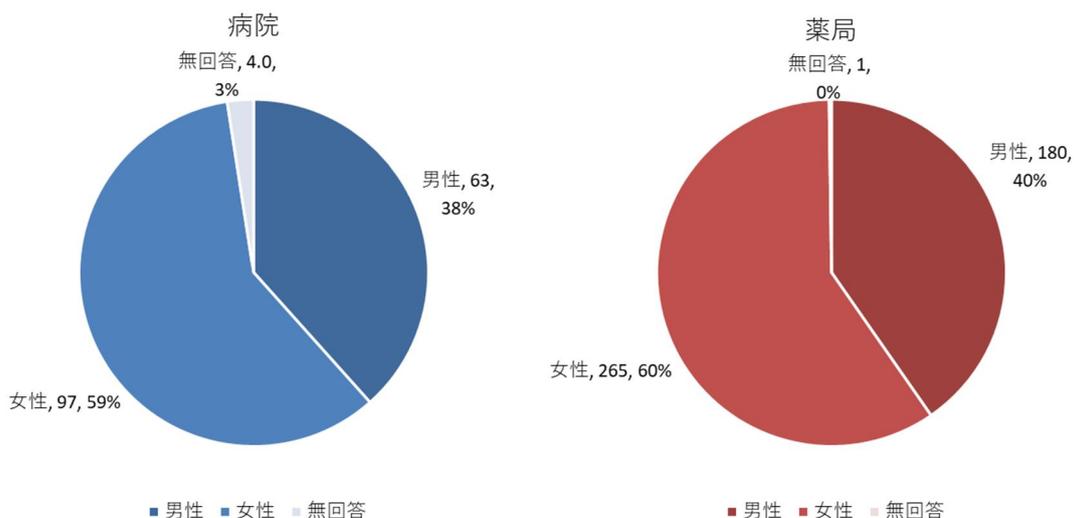
ウ 性別

性別は、栃木県では病院は男性が 38.4%、女性が 59.1%、無回答が 2.4%であり、女性の割合が高かった。また、薬局では男性が 40.4%、女性が 59.4%、無回答が 0.2%であり、女性の割合が高かった。

病院と薬局を比較すると、男性と女性の割合はほぼ同様であった。

全国では、平成 30 年 4 月から令和 3 年 3 月の 3 年間に退職した薬剤師の性別は、病院では男性が 36.5%、女性が 61.4%、無回答 2.1%であり、薬局では男性が 35.6%、女性が 63.7%、無回答 0.7%であった。栃木県は全国と比較して、概ね同様の傾向であった。

図表 81 令和2年4月～令和5年3月に退職した薬剤師の性別



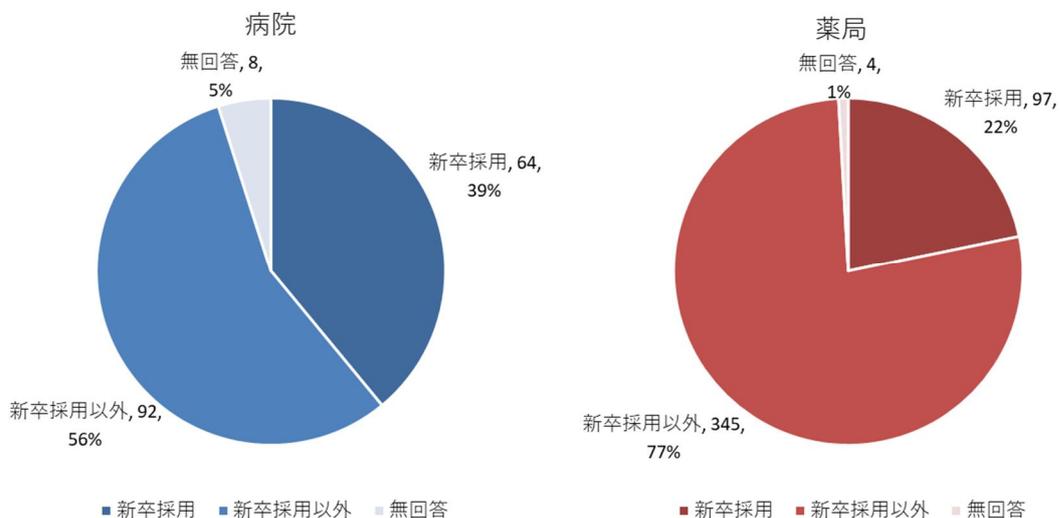
エ 勤務経験

勤務経験は、栃木県では病院は新卒採用が 39.0%、新卒採用以外が 56.1%、無回答が 4.9%であり、新卒採用と新卒採用以外の割合はほぼ同様であった。また、薬局では新卒採用が 21.7%、新卒採用以外が 77.4%、無回答が 0.9%であり、新卒採用以外の割合がかなり高かった。

病院と薬局を比較すると、病院の方が薬局よりも新卒採用の割合がやや高く、病院の方が新卒採用の退職の割合が高いことが示唆された。

全国では、平成 30 年 4 月から令和 3 年 3 月の 3 年間に退職した薬剤師の勤務経験は、病院では新卒採用が 55.2%、新卒採用以外が 44.0%、無回答が 0.8%であり、薬局では新卒採用が 10.0%、新卒採用以外が 88.4%であった。栃木県は全国と比較して、病院の新卒採用の割合がやや低く、薬局は新卒採用の割合がやや高かった。

図表 82 令和2年4月～令和5年3月に退職した薬剤師の勤務経験



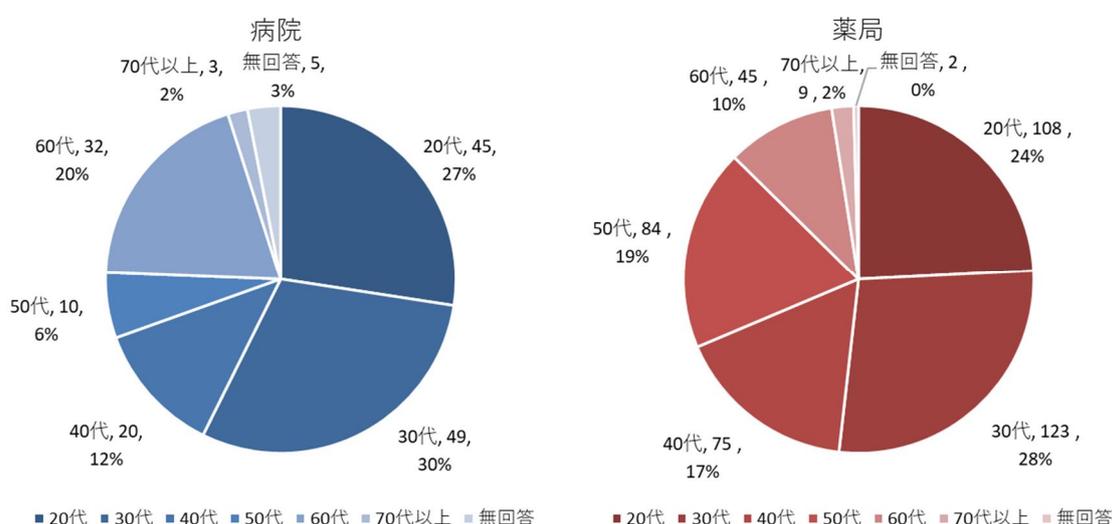
オ 年代

年代は、栃木県では病院は30代が29.9%で最も高く、次いで20代が27.4%、60代が10.9%であった。また、薬局は30代が27.6%で最も高く、次いで20代が24.2%、50代が18.8%であった。

病院と薬局を比較すると、病院の方が薬局よりも20代、30代の割合がやや高く、薬40代、50代の割合がやや低かった。

全国では、平成30年4月から令和3年3月の3年間に退職した薬剤師の年代は、病院では20代32.9%、30代30.8%、40代10.5%、50代8.4%、60代14.0%、70代以上1.3%であった。また薬局では、20代11.4%、30代30.3%、40代23.4%、50代15.4%、60代13.8%、70代以上4.9%であった。栃木県は全国と比較して薬局での20代の割合が高かった。

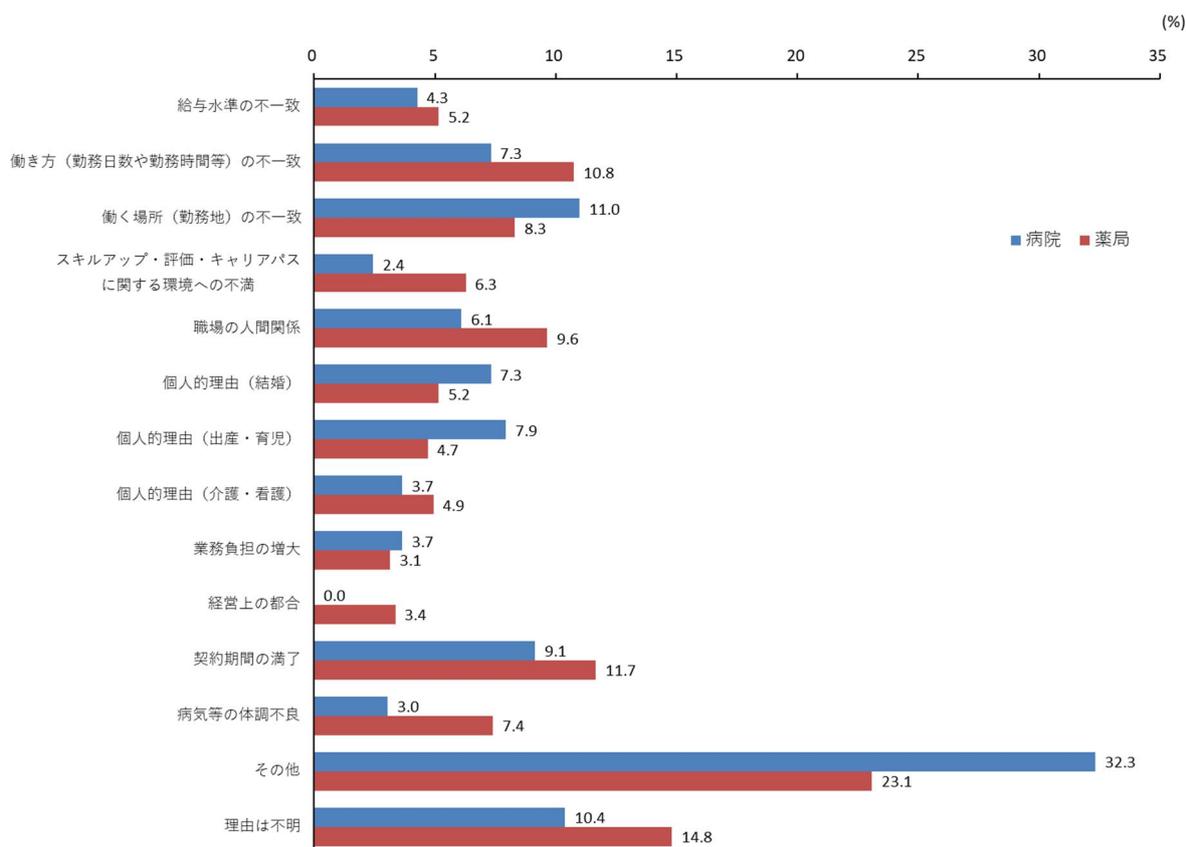
図表 83 令和2年4月～令和5年3月に退職した薬剤師の年代



カ 退職理由（複数回答）

退職理由は、栃木県では病院はその他、理由は不明を除くと働く場所（勤務地）の不一致が11.0%で最も高く、次いで契約期間の満了が9.1%、個人的理由（出産・育児）が7.9%、働き方（勤務日数や勤務時間等）の不一致及び個人的理由（結婚）がそれぞれ7.3%であった。また、薬局はその他、理由は不明を除くと契約期間の満了が11.7%で最も高く、次いで働き方（勤務日数や勤務時間等）の不一致が10.8%、職場の人間関係が9.6%、働く場所（勤務地）の不一致が8.3%であった。

図表 84 令和2年4月～令和5年3月に退職した薬剤師の退職理由



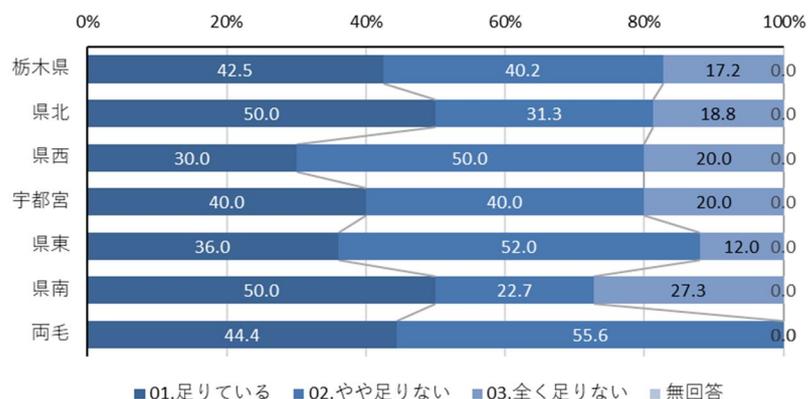
(8) 現在の業務に対する薬剤師の充足感について

ア 病院

a 二次保健医療圏別

現在の薬剤師の充足状況に対する認識（充足感）について、不足していると認識している施設の割合は、病院では57.4%（「全く足りない」17.2%、「やや足りない」40.2%の合計）であった。県西が70.0%（「全く足りない」20.0%、「やや足りない」50.0%の合計）、県東が64.0%（「全く足りない」12.0%、「やや足りない」52.0%の合計）と高かった。

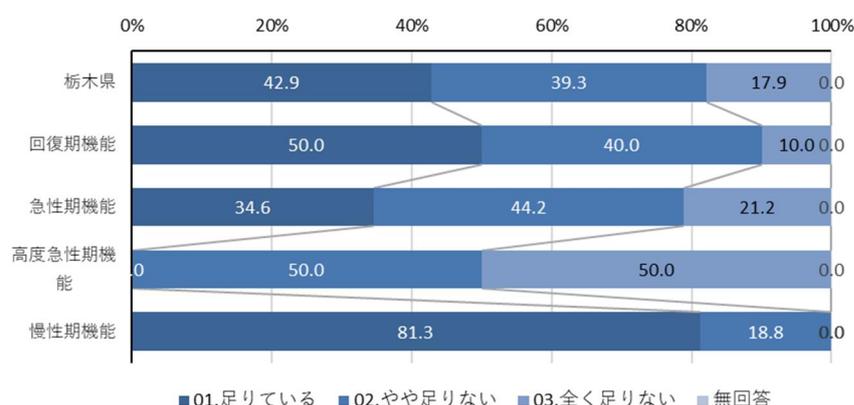
図表 85 薬剤師の充足感（病院）



b 医療機能別

医療機能別では、不足していると認識している施設の割合は、高度急性期機能が100%（「全く足りない」50.0%、「やや足りない」50.0%の合計）で最も高く、次いで急性期機能が65.4%（「全く足りない」44.2%、「やや足りない」21.2%の合計）であった。

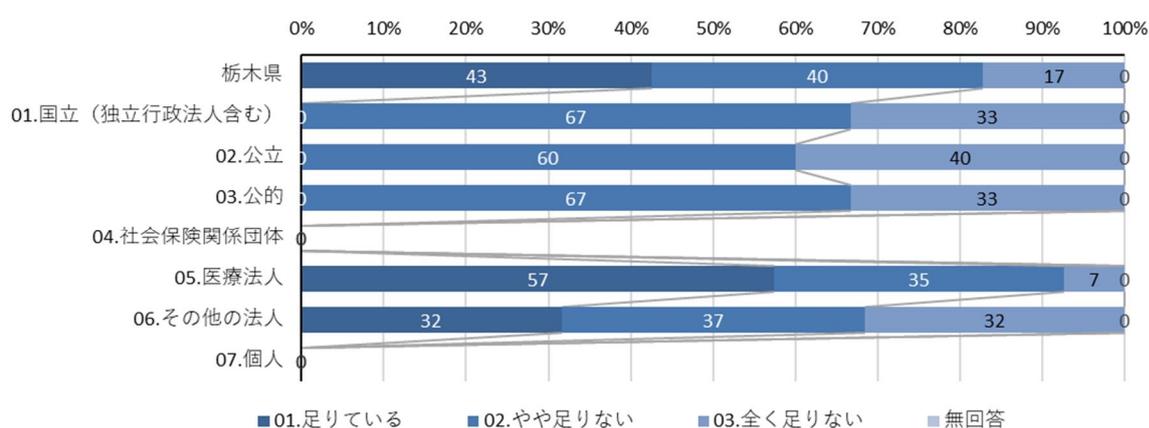
図表 86 薬剤師の充足感（医療機能別）（病院）



c 開設者別

開設者別では、不足していると認識している施設の割合は、国立、公立、公的はいずれも100%と高かった。

図表 87 薬剤師の充足感（開設者別）（病院）

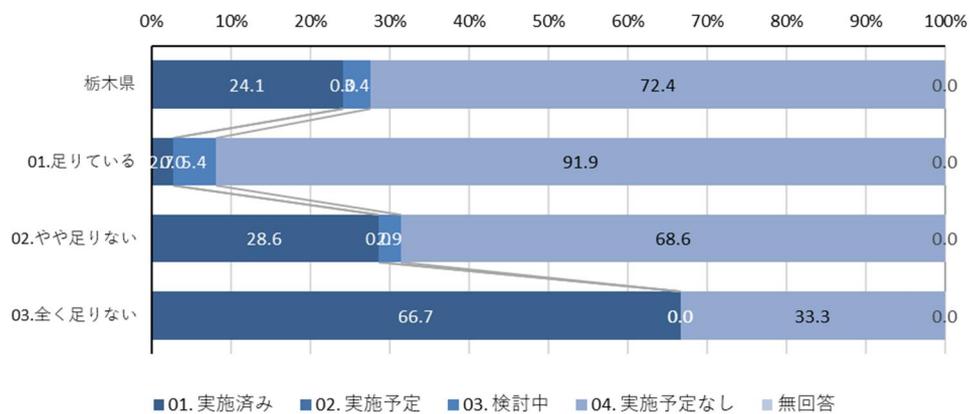


d 取組実施・検討状況別

薬剤師の充足感別の薬剤部門での取組実施・検討状況については、いずれの取組についても、程度に差はあるものの、薬剤師が不足していると認識している施設ほど実施済みの割合が多い傾向が認められた。すなわち、多くの取組の実施により、薬剤師の活躍が求められている可能性も示唆された。

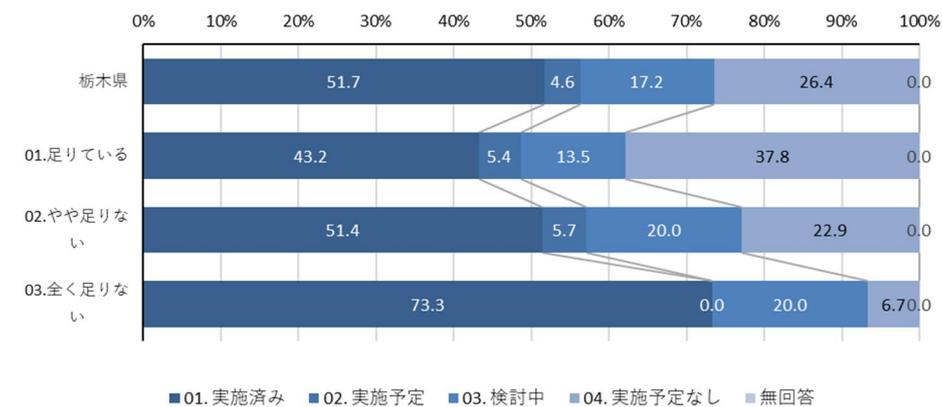
(a) 24 時間対応

図表 88 24 時間対応（薬剤師の充足感別）（病院）



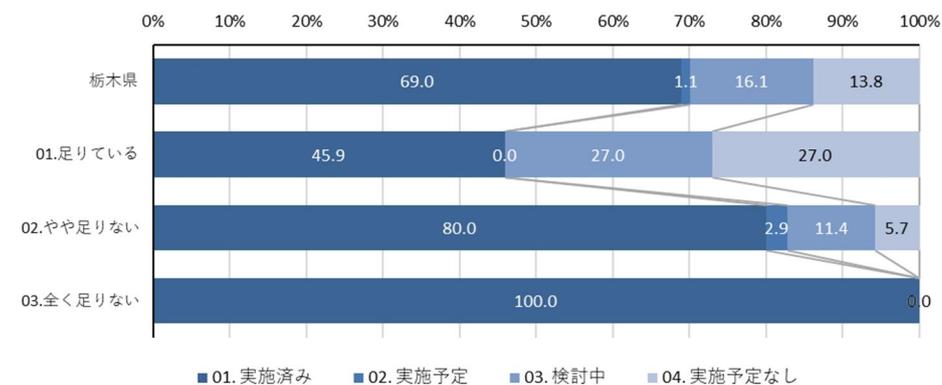
(b) 病棟業務

図表 89 病棟業務（薬剤師の充足感別）（病院）



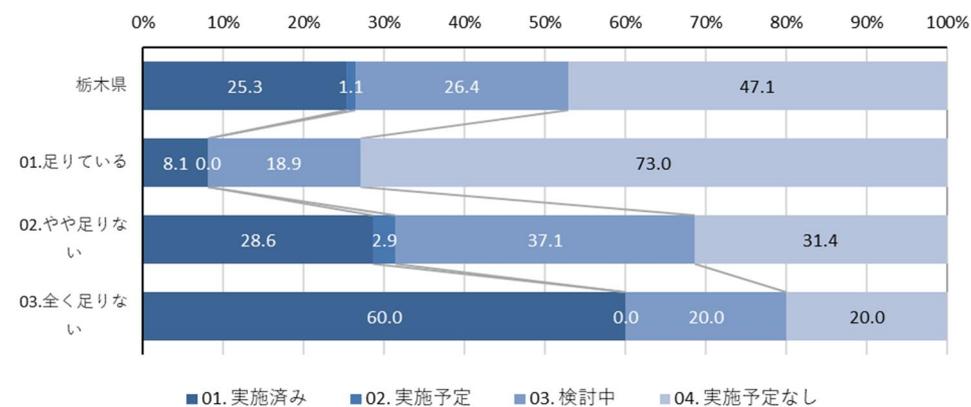
(c) チーム医療

図表 90 チーム医療（薬剤師の充足感別）（病院）



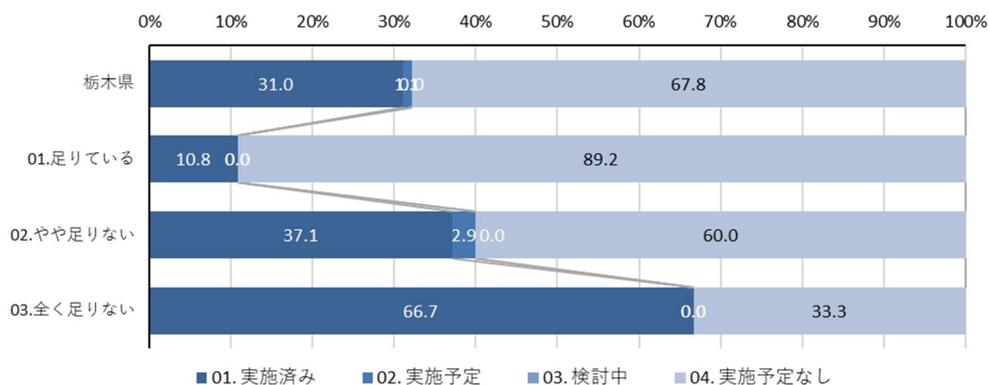
(d) 地域での多職種連携

図表 91 地域での多職種連携（薬剤師の充足感別）（病院）



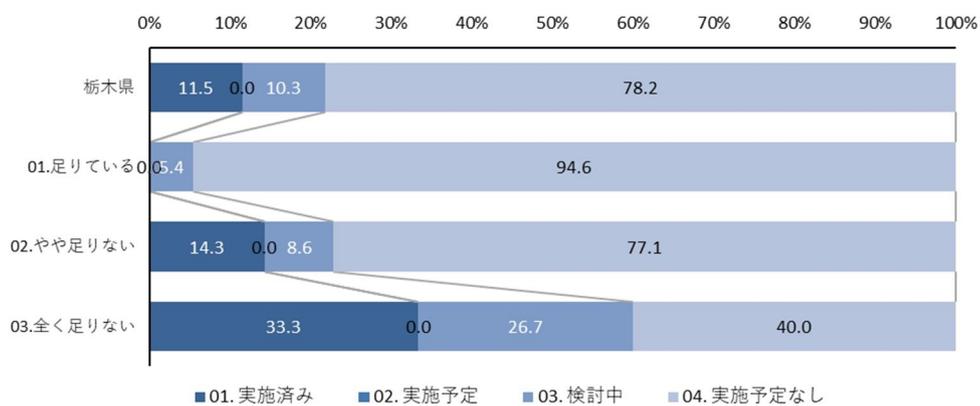
(e) 外来化学療法

図表 92 外来化学療法（薬剤師の充足感別）（病院）



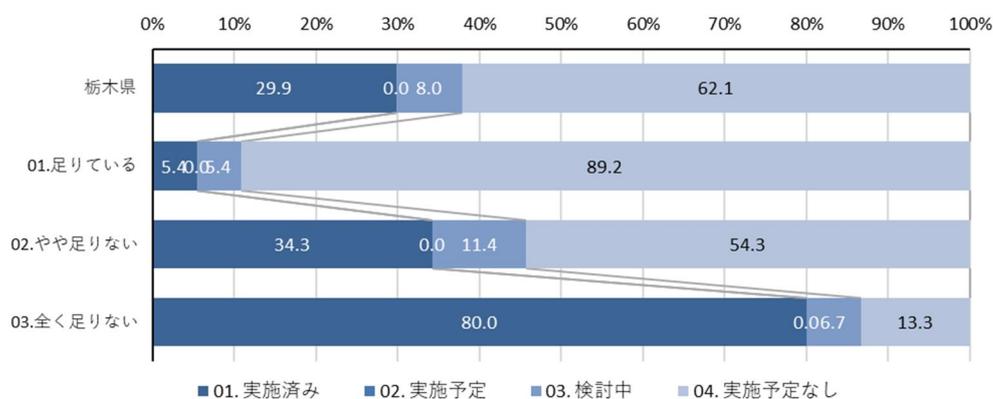
(f) 薬剤師外来

図表 93 薬剤師外来（薬剤師の充足感別）（病院）



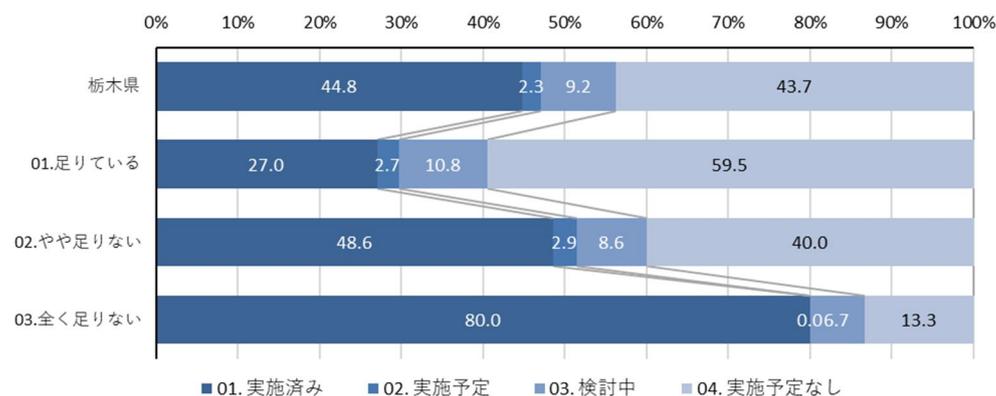
(g) 治療薬物モニタリング (TDM)

図表 94 治療薬物モニタリング (TDM) (薬剤師の充足感別) (病院)



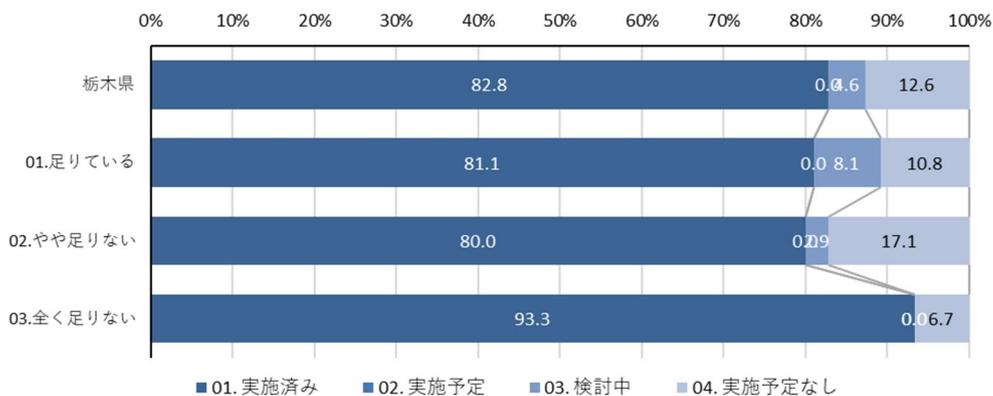
(h) 医薬品情報管理

図表 95 医薬品情報管理 (薬剤師の充足感別) (病院)



(i) 医療安全管理部門業務

図表 96 医療安全管理部門業務 (薬剤師の充足感別) (病院)

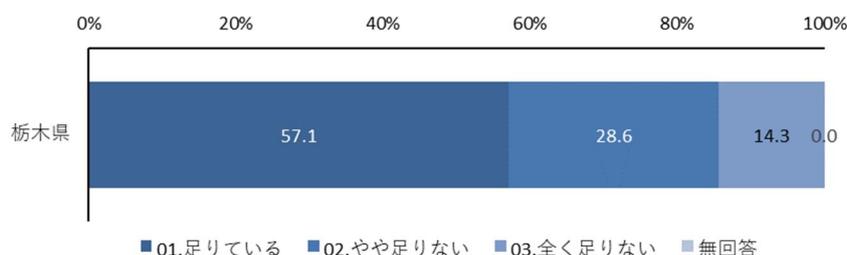


イ 有床診療所(常勤医3名以上)

a 栃木県全体

現在の薬剤師の充足状況に対する認識(充足感)について、不足していると認識している施設の割合は、有床診療所(常勤医3名以上)では42.9%〔「全く足りない」14.3%、「やや足りない」28.6%の合計〕であった。

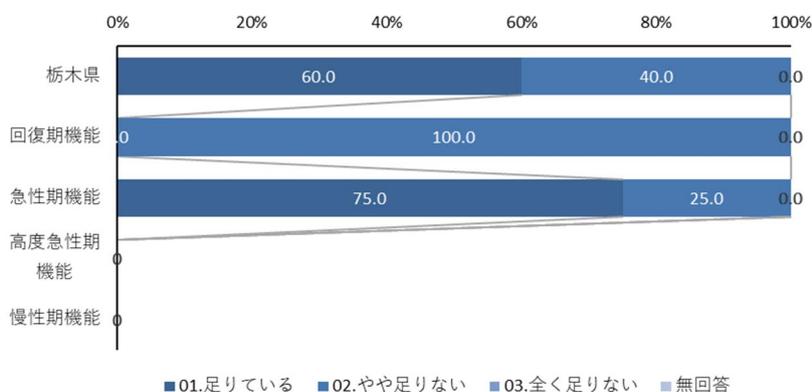
図表 97 薬剤師の充足感(有床診療所(常勤医3名以上))



b 医療機能別

医療機能別では、不足していると認識している施設の割合は、回復期機能が100%〔「全く足りない」0.0%、「やや足りない」100.0%の合計〕で最も高く、次いで急性期機能が25.0%〔「やや足りない」25.0%の合計〕であった。いずれの施設においても「全く足りない」と回答した施設はなかった。

図表 98 薬剤師の充足感(医療機能別)(有床診療所(常勤医3名以上))



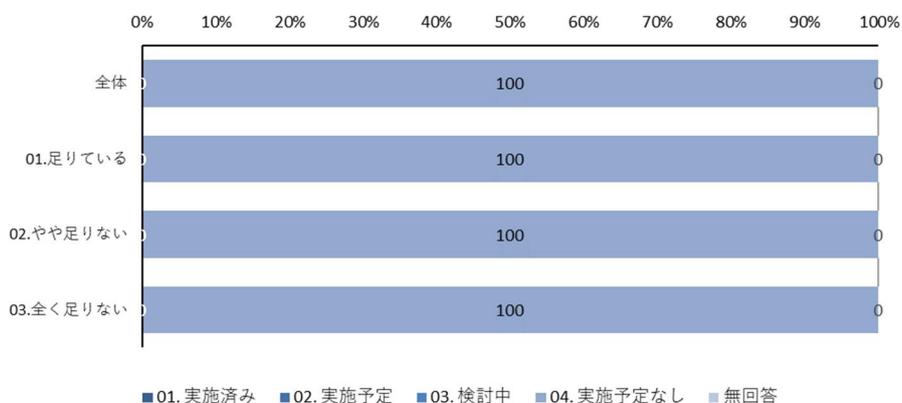
c 取組実施・検討状況別

現在の薬剤師の充足感ごとに薬局での取組実施・検討状況を見ると、「病棟業務」「チーム医療」「地域での多職種連携」「医療安全管理部門業務」ではやや足りないと回答した薬局で、取組を実施済みと回答した割合が高い傾向が見られた。

充足感と取組の実施状況に、明確な相関は認められなかった。

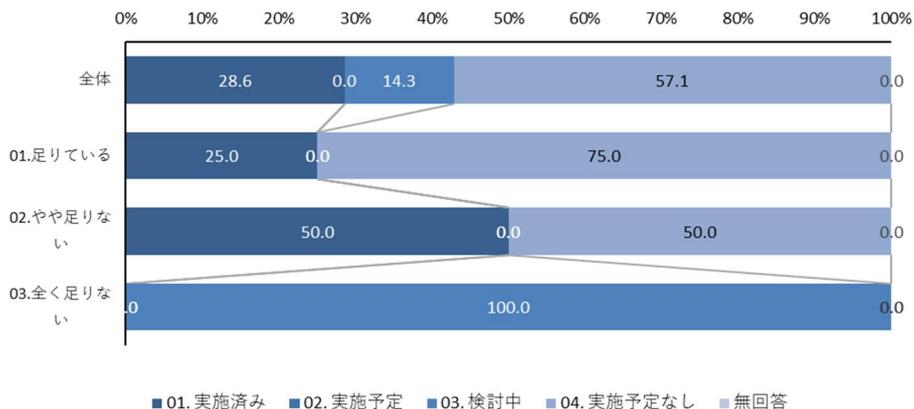
(a) 24 時間対応

図表 99 24 時間対応（薬剤師の充足感別）（有床診療所（常勤医 3 名以上））



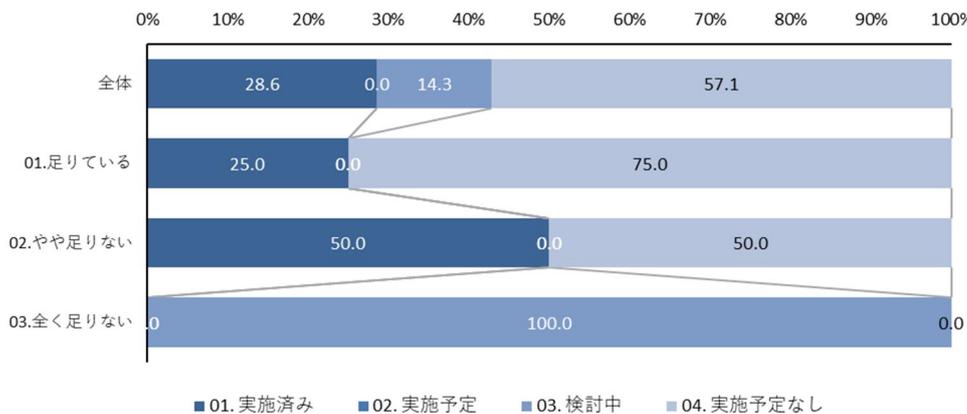
(b) 病棟業務

図表 100 病棟業務（薬剤師の充足感別）（有床診療所（常勤医 3 名以上））



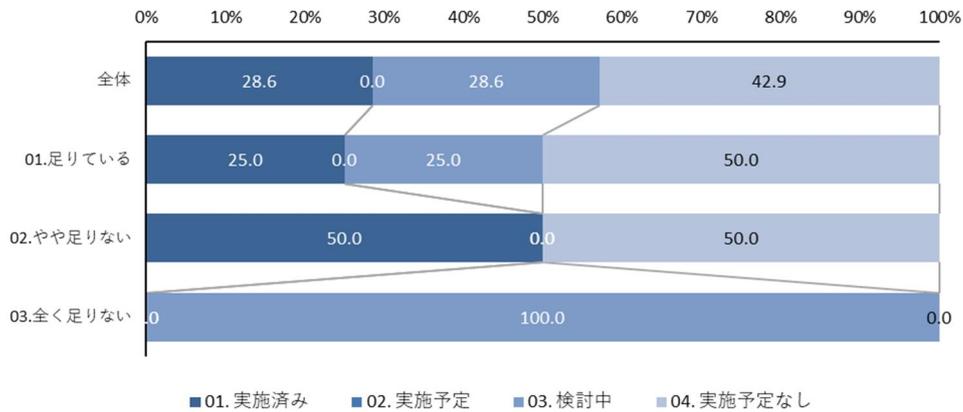
(c) チーム医療

図表 101 チーム医療（薬剤師の充足感別）（有床診療所（常勤医 3 名以上））



(d) 地域での多職種連携

図表 102 地域での多職種連携（薬剤師の充足感別）（有床診療所（常勤医 3 名以上））



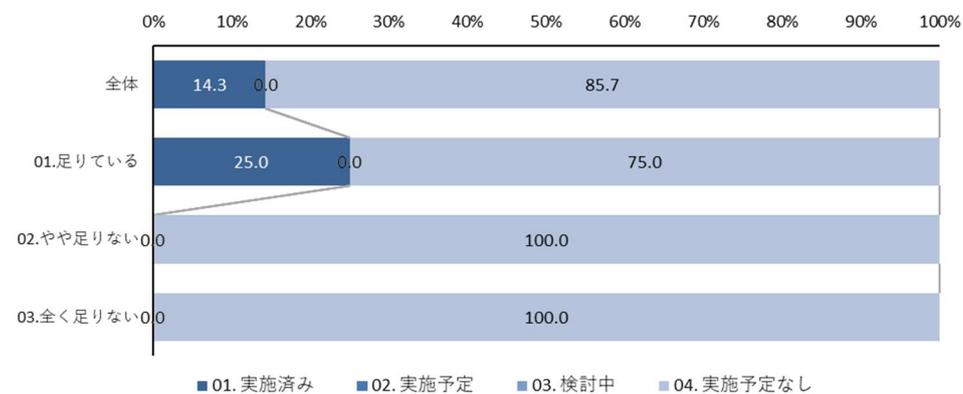
(e) 外来化学療法

図表 103 外来化学療法（薬剤師の充足感別）（有床診療所（常勤医 3 名以上））



(f) 薬剤師外来

図表 104 薬剤師外来（薬剤師の充足感別）（有床診療所（常勤医 3 名以上））



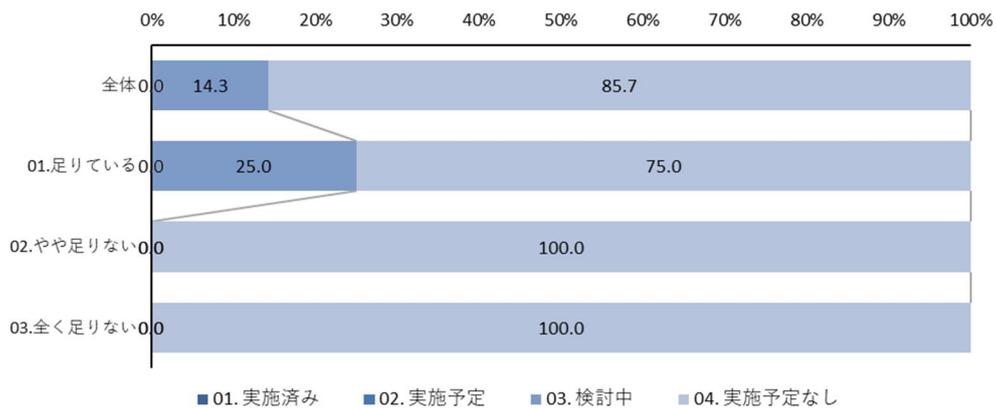
(g) 治療薬物モニタリング (TDM)

図表 105 治療薬物モニタリング (TDM) (薬剤師の充足感別) (有床診療所(常勤医3名以上))



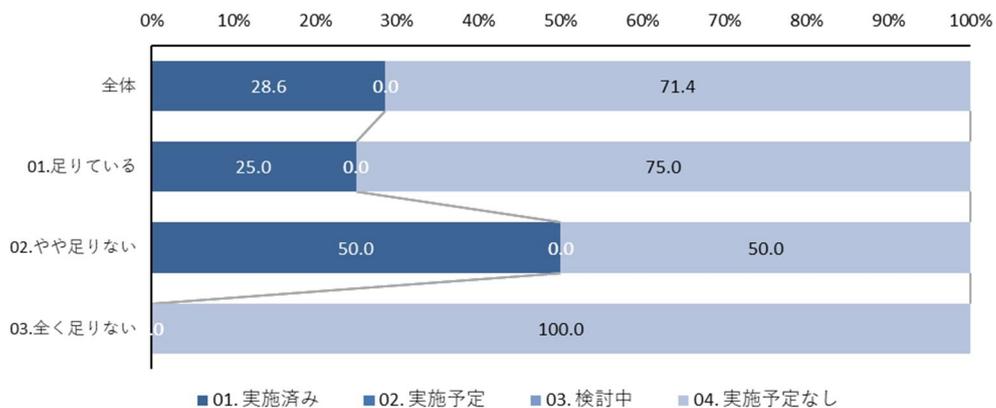
(h) 医薬品情報管理

図表 106 医薬品情報管理 (薬剤師の充足感別) (有床診療所(常勤医3名以上))



(i) 医療安全管理部門業務

図表 107 医療安全管理部門業務 (薬剤師の充足感別) (有床診療所(常勤医3名以上))



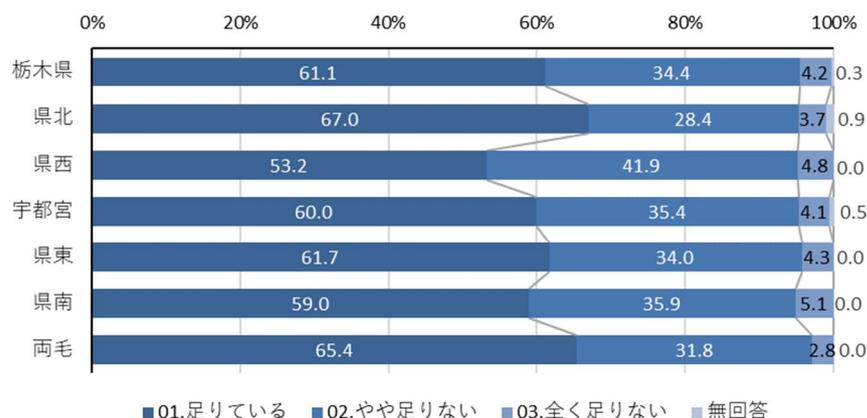
ウ 薬局

a 二次保健医療圏別

現在の薬剤師の充足状況に対する認識（充足感）について、不足していると認識している施設の割合は、薬局では38.6%（「全く足りない」4.2%、「やや足りない」40.2%の合計）であった。

全国では、不足していると認識している施設の割合は、薬局では41.2%（「全く足りない」5.7%、「やや足りない」35.5%の合計）であった。栃木県は全国と比較して、不足していると認識している施設の割合は低かった。

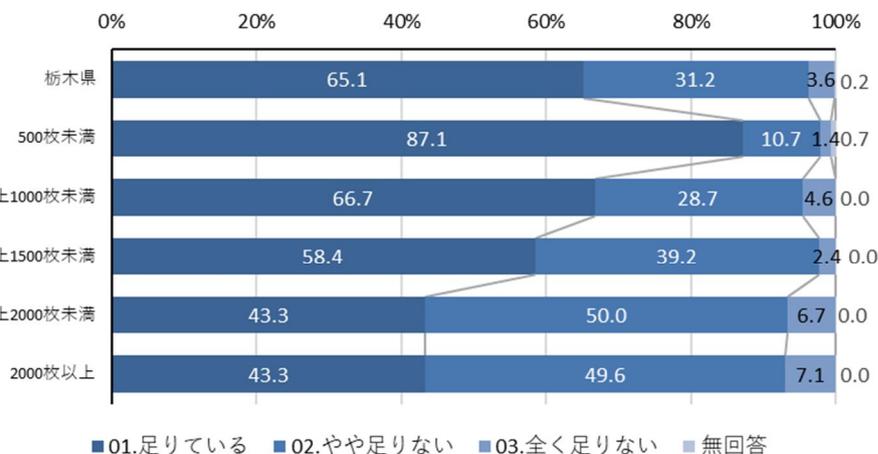
図表 108 薬剤師の充足感（薬局）



b 応需処方箋規模別

応需処方箋規模別では、応需処方箋が多くなるほど不足していると認識している施設の割合が高くなる傾向であった。

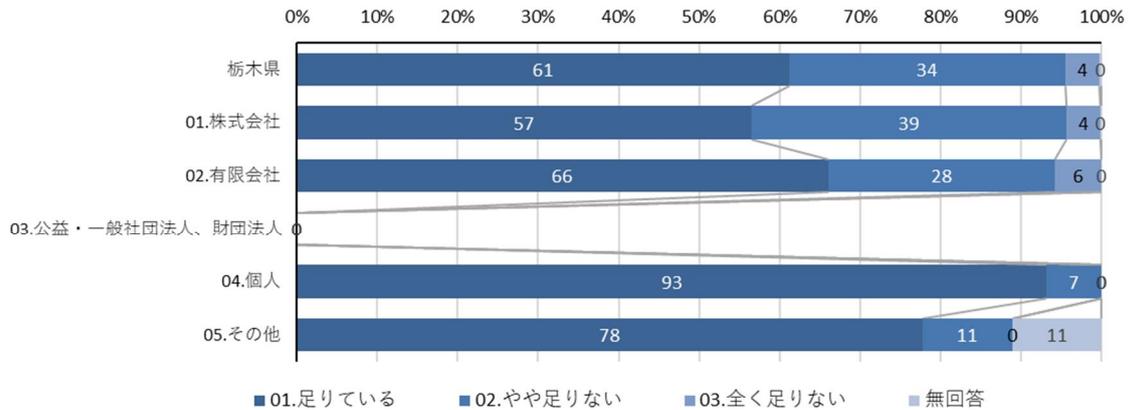
図表 109 薬剤師の充足感（応需処方箋規模別）（薬局）



c 開設者別

開設者別では、不足していると認識している施設の割合は、株式会社や有限会社でやや高かった。

図表 110 薬剤師の充足感（開設者別）（薬局）



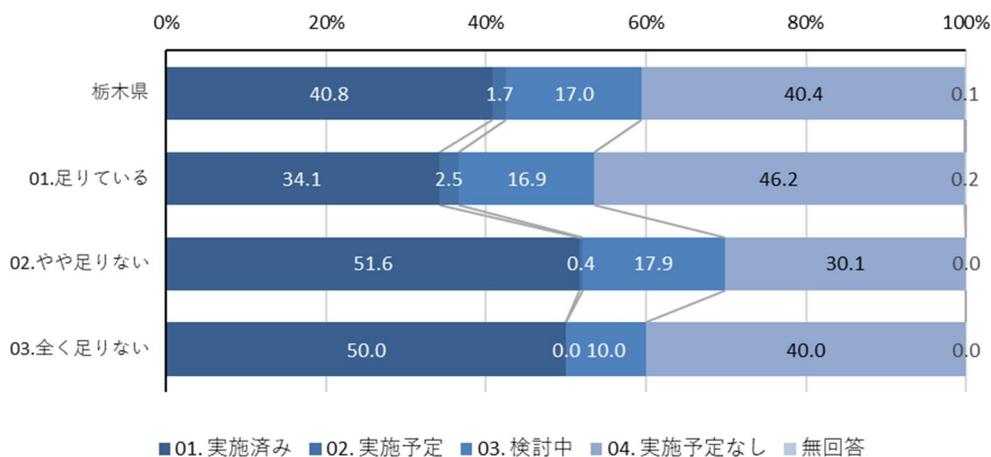
d 取組実施・検討状況別

現在の薬剤師の充足感ごとに薬局での取組実施・検討状況を見ると、「24 時間対応」「在宅患者訪問薬剤管理指導の届出」「在宅患者調剤加算の届出」「高度薬学管理」「地域での多職種連携」「要指導医薬品の取扱」「一般用医薬品の取扱」「健康サポート薬局の届出」ではやや足りないと回答した薬局で、取組を実施済みと回答した割合が高い傾向が見られた。「地域連携薬局の認定」については、足りている、やや足りないと回答した薬局で、取組を実施済みと回答した割合が高かった。

充足感と取組の実施状況に、明確な相関は認められなかった。

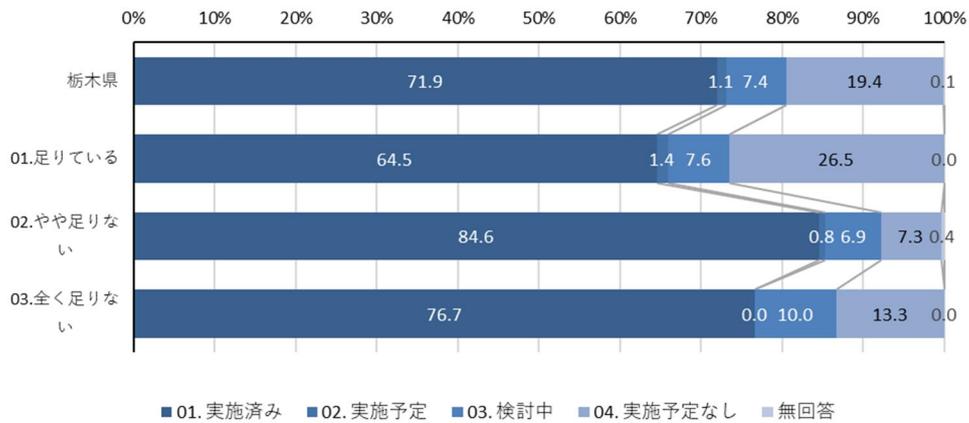
(a) 24 時間対応

図表 111 24 時間対応（薬剤師の充足感別）（薬局）



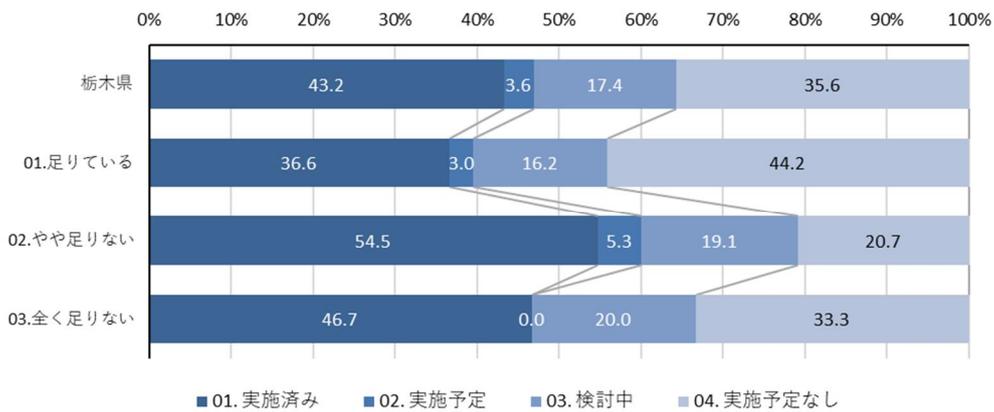
(b) 在宅患者訪問薬剤管理指導の届出

図表 112 在宅患者訪問薬剤管理指導の届出（薬剤師の充足感別）（薬局）



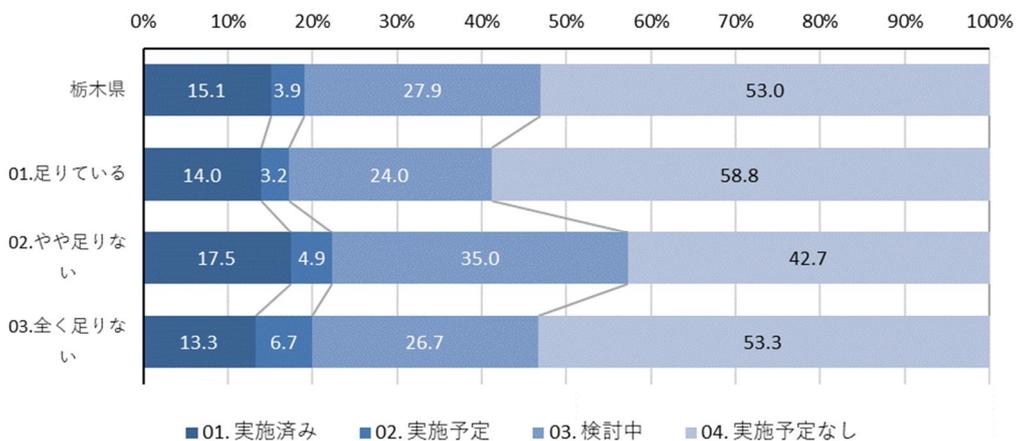
(c) 在宅患者調剤加算の届出

図表 113 在宅患者調剤加算の届出（薬剤師の充足感別）（薬局）



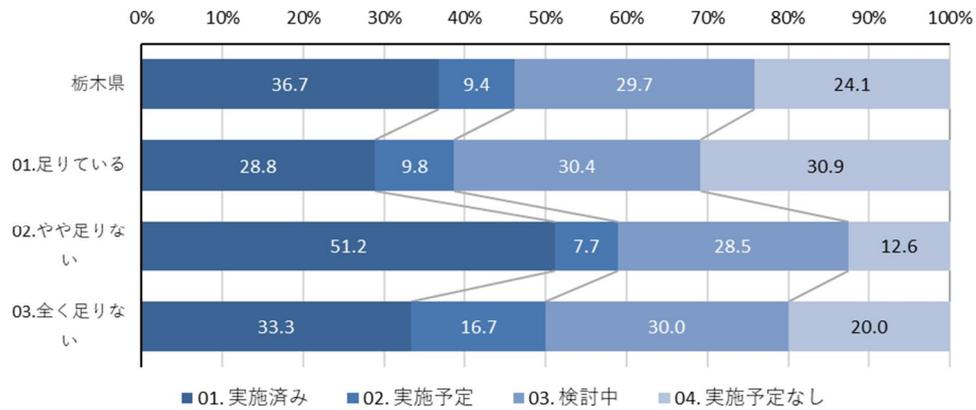
(d) 高度薬学管理

図表 114 高度薬学管理（薬剤師の充足感別）（薬局）



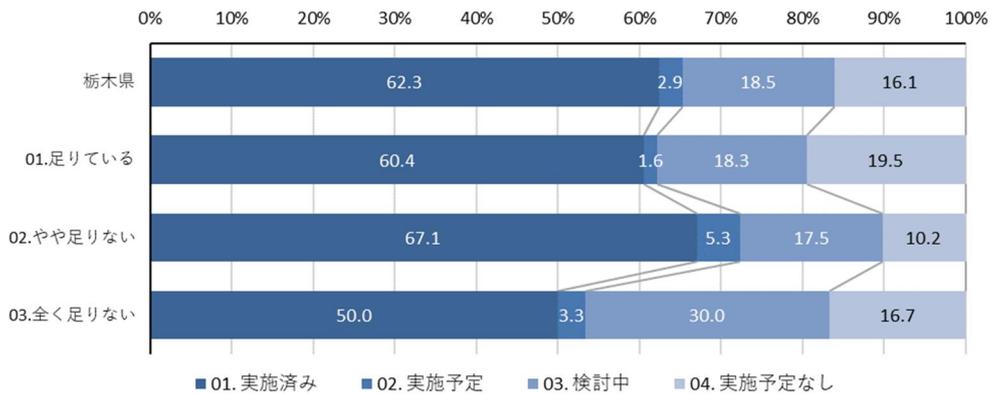
(e) 地域での多職種連携

図表 115 地域での多職種連携（薬剤師の充足感別）（薬局）



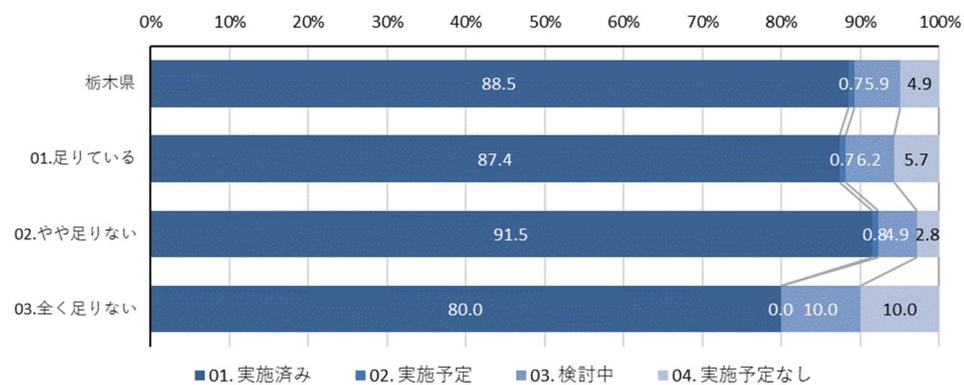
(f) 要指導医薬品の取扱

図表 116 要指導医薬品の取扱（薬剤師の充足感別）（薬局）



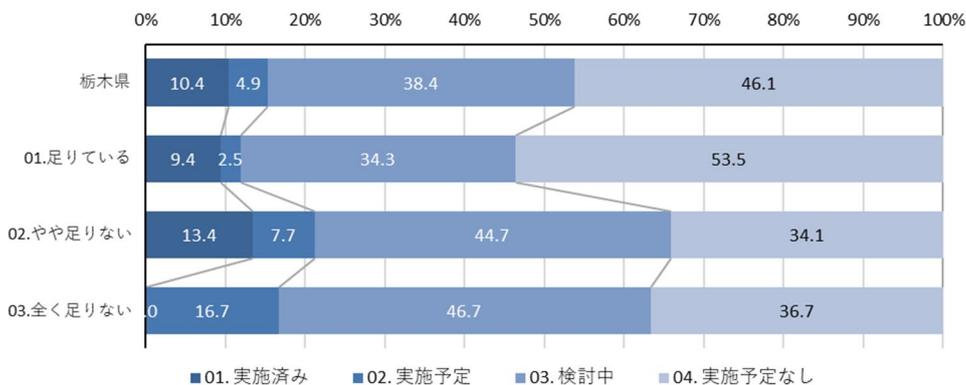
(g) 一般用医薬品の取扱

図表 117 一般用医薬品の取扱（薬剤師の充足感別）（薬局）



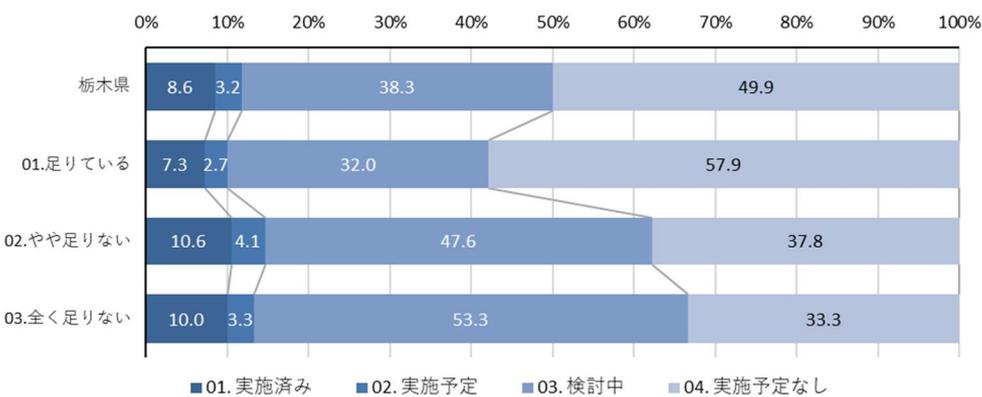
(h) 地域連携薬局の認定

図表 118 地域連携薬局の認定（薬剤師の充足感別）（薬局）



(i) 健康サポート薬局の届出

図表 119 健康サポート薬局の届出（薬剤師の充足感別）（薬局）



(9) 必要薬剤師数について

必要と考える薬剤師数について、栃木県では病院において常勤は平均値が 14.1 人、中央値が 5.0 人であった。

有床診療所(常勤医 3 名以上)では、常勤は平均値が 1.0 人、中央値が 1.0 人であった。

また、薬局において平均値が 3.1 人、中央値が 2.5 人であった。

常勤は病院、薬局、有床診療所(常勤医 3 名以上)の順で必要と考える薬剤師数が多かった。病院及び薬局では、いずれも二次保健医療圏では県南で平均値が高かった。

非常勤については、病院において平均値が 0.3 人、中央値が 0 人であった。また、薬局において平均値が 0.9 人、中央値が 1.0 人であった。非常勤は病院に比較して薬局で必要と考える薬剤師数が多かった。

図表 120 必要薬剤師数（病院）

	常勤						非常勤					
							常勤換算					
	調査数	平均値	標準偏差	中央値	最小値	最大値	調査数	平均値	標準偏差	中央値	最小値	最大値
栃木県	n=50	14.1	20.5	5.0	1.0	100.0	n=50	0.5	0.9	0.0	0.0	5.0
県北	n=8	15.3	13.8	10.5	3.0	40.0	n=8	0.4	0.7	0.0	0.0	1.8
県西	n=7	8.1	8.2	4.0	2.0	24.0	n=7	0.2	0.4	0.0	0.0	1.0
宇都宮	n=16	9.3	11.7	5.0	1.0	48.0	n=16	0.7	1.3	0.0	0.0	5.0
県東	n=3	10.0	10.4	5.0	3.0	22.0	n=3	0.3	0.6	0.0	0.0	1.0
県南	n=11	24.5	37.1	6.0	1.0	100.0	n=11	0.4	0.5	0.0	0.0	1.3
両毛	n=5	15.4	15.8	6.0	2.0	35.0	n=5	0.6	0.9	0.0	0.0	2.0

図表 121 必要薬剤師数（有床診療所(常勤医3名以上)）

	常勤						非常勤					
							常勤換算					
	調査数	平均値	標準偏差	中央値	最小値	最大値	調査数	平均値	標準偏差	中央値	最小値	最大値
栃木県	n=3	1.0	1.0	1.0	0.0	2.0	n=3	0.7	0.6	1.0	0.0	1.0

図表 122 必要薬剤師数（薬局）

	常勤						非常勤					
							常勤換算					
	調査数	平均値	標準偏差	中央値	最小値	最大値	調査数	平均値	標準偏差	中央値	最小値	最大値
栃木県	n=284	3.1	3.4	2.5	1.0	50.0	n=284	1.0	1.1	1.0	0.0	8.0
県北	n=39	2.6	1.6	2.0	1.0	9.0	n=39	0.8	0.6	1.0	0.0	3.0
県西	n=29	2.4	1.5	2.0	1.0	8.0	n=29	1.1	1.5	1.0	0.0	8.0
宇都宮	n=75	3.3	2.3	3.0	1.0	14.0	n=75	1.2	1.3	1.0	0.0	7.4
県東	n=19	2.8	1.9	2.0	1.0	9.0	n=19	0.9	0.8	1.0	0.0	2.0
県南	n=86	3.5	5.4	2.5	1.0	50.0	n=86	0.9	0.9	1.0	0.0	4.0
両毛	n=36	3.1	1.8	3.0	1.0	7.0	n=36	0.9	1.2	1.0	0.0	7.0

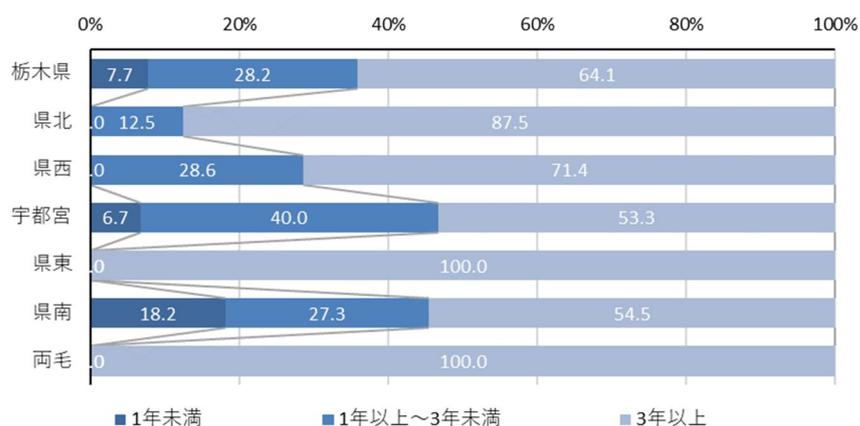
(10) 薬剤師不足の状況（複数回答）

薬剤師不足の状況について、栃木県では病院において3年以上が68.1%と最も多かった。有床診療所(常勤医3名以上)では3年以上が100%であった。

また、薬局では1年以上3年未満が40.3%と最も多かった。

病院や有床診療所(常勤医3名以上)においては、3年以上の長期的に人材不足が続いている状況が示された。一方で薬局は、1年以上3年未満と新型コロナウイルス感染症などへの対応等により人材が不足している可能性も考えられた。

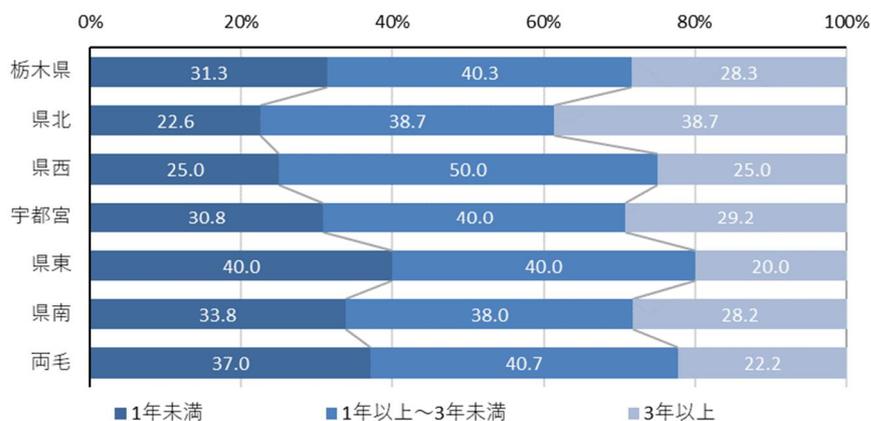
図表 123 薬剤師不足の状況（病院）



図表 124 薬剤師不足の状況（有床診療所(常勤医3名以上)）



図表 125 薬剤師不足の状況（薬局）



(11) 薬剤師不足の弊害（複数回答）

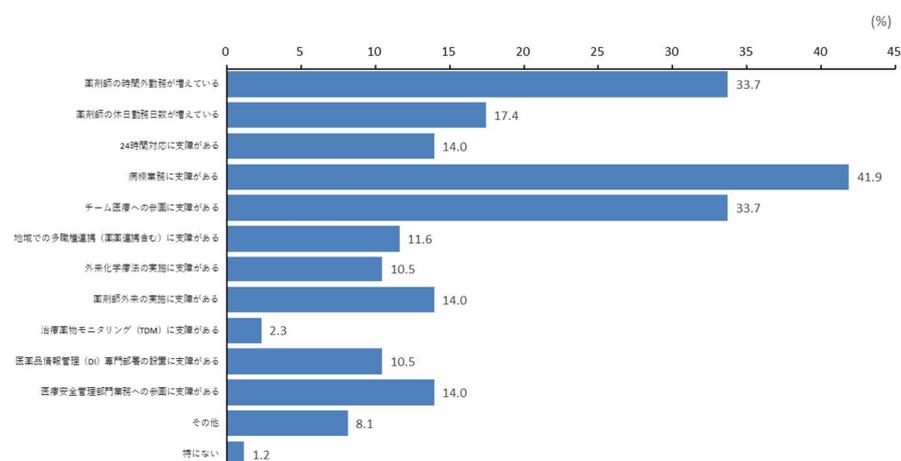
薬剤師不足のために生じていると考える弊害について、栃木県では病院において病棟業務に支障があるが41.9%と最も多く、次いで、薬剤師の時間外勤務及びチーム医療参画への支障があるがそれぞれ33.7%であった。

有床診療所(常勤医3名以上)は、特にないが28.6%と最も割合が多く、次いで、「外来化学療法」「治療薬物モニタリング(TDM)」「その他」以外の業務が14.3%と、実施している業務内容によると思われるが全体的に支障があると推察された。

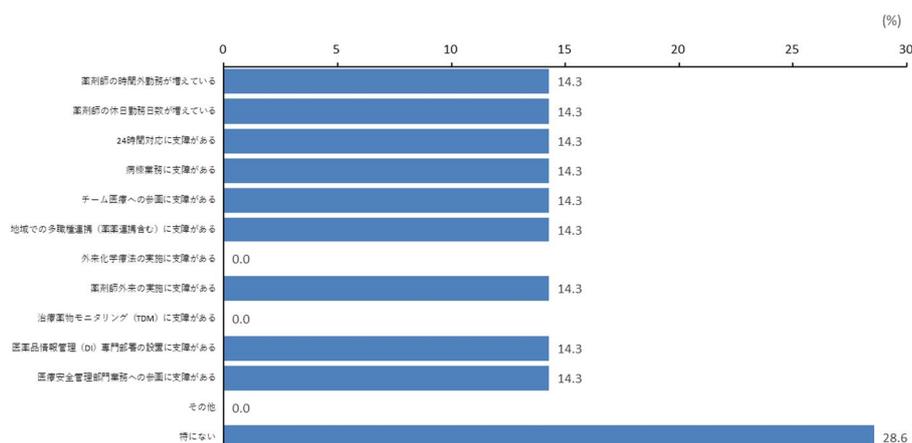
また、薬局においては、薬剤師の時間外勤務が15.0%と最も割合が高く、次いでチーム医

療参画への支障があるが14.5%と高かった。

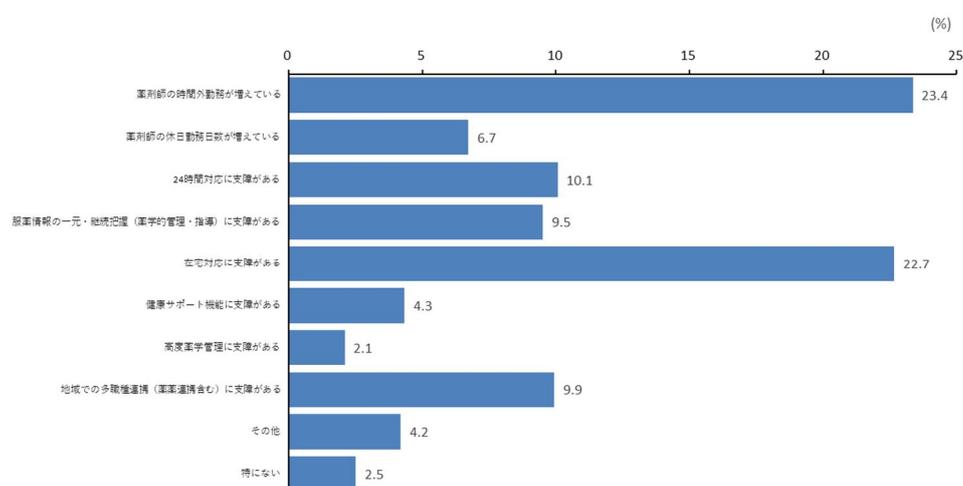
図表 126 薬剤師不足の弊害（病院）



図表 127 薬剤師不足の弊害（有床診療所（常勤医3名以上））



図表 128 薬剤師不足の弊害（薬局）



(12) 業務上理想と考える薬剤師総数及び想定業務（想定業務は複数回答）

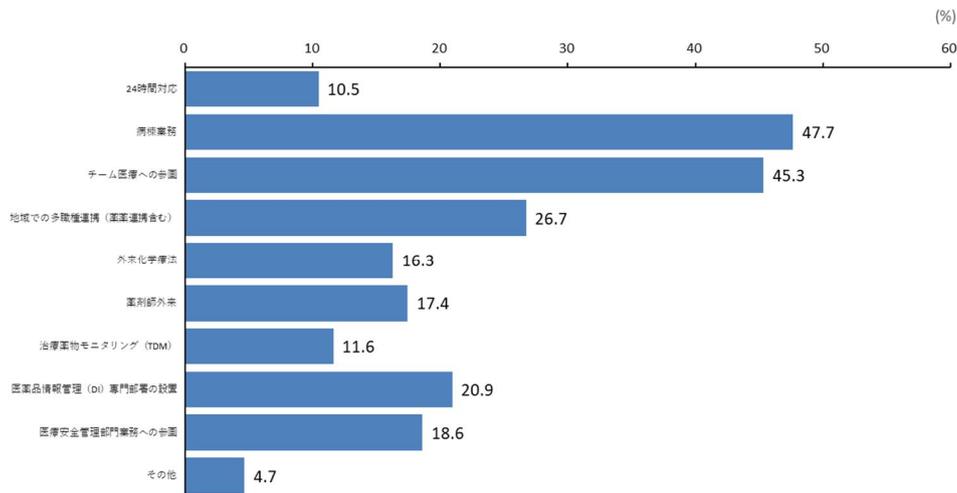
栃木県では病院における業務上理想と考える薬剤師総数は常勤の平均値が 9.8 人、中央値が 4.0 人で、非常勤の平均値が 0.4 人、中央値が 0 人であった。想定する業務としては病棟業務が 47.7%と最も割合が高く、次いでチーム医療参画が 45.3%、地域での多職種連携が 26.7%であった。

有床診療所(常勤医 3 名以上)における業務上理想と考える薬剤師総数は常勤の平均値が 0.9 人、中央値が 1.0 人で、非常勤の平均値が 0.4 人、中央値が 0 人であった。想定する業務としては病棟業務が 47.7%と最も割合が高く、次いでチーム医療参画が 45.3%、地域での多職種連携が 26.7%であった。

薬局における業務上理想と考える薬剤師総数は常勤の平均値が 2.5 人、中央値が 2.0 人で、非常勤の平均値が 0.9 人、中央値が 1.1 人であった。想定する業務としては病棟業務、薬剤師外来、その他がそれぞれ 14.3%と最も割合が高かった。

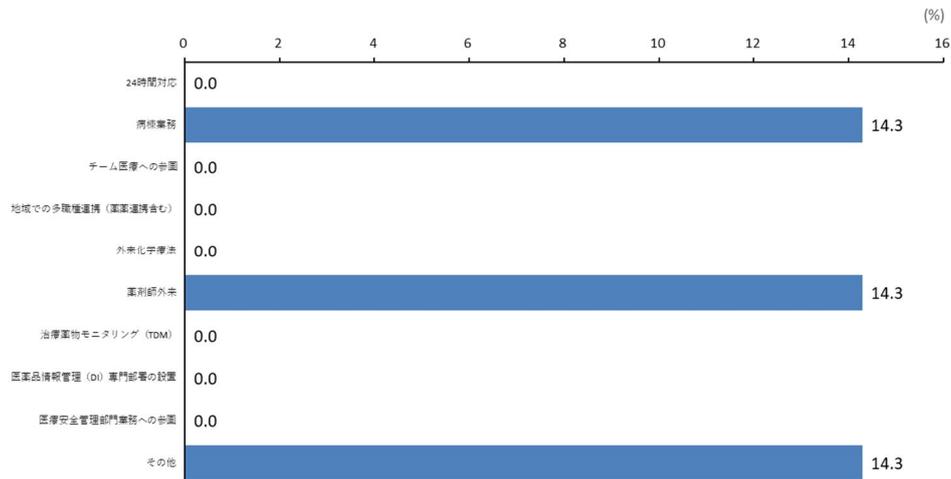
図表 129 業務上理想と考える薬剤師総数及び想定業務（病院）

	常勤						非常勤					
							常勤換算					
	調査数	平均値	標準偏差	中央値	最小値	最大値	調査数	平均値	標準偏差	中央値	最小値	最大値
栃木県	n=87	9.7	17.8	4.0	1.0	110.0	n=87	0.4	0.7	0.0	0.0	5.0
県北	n=16	9.3	12.0	3.5	1.0	40.0	n=16	0.3	0.5	0.0	0.0	1.8
県西	n=10	6.8	8.1	4.0	1.0	25.0	n=10	0.4	0.5	0.0	0.0	1.0
宇都宮	n=25	7.2	10.5	4.0	1.0	50.0	n=25	0.6	1.1	0.0	0.0	5.0
県東	n=5	7.0	8.6	3.0	1.0	22.0	n=5	0.2	0.4	0.0	0.0	1.0
県南	n=22	14.5	29.9	4.0	1.0	110.0	n=22	0.2	0.3	0.0	0.0	1.0
両毛	n=9	10.3	15.0	2.0	1.0	38.0	n=9	0.5	0.7	0.5	0.0	2.0



図表 130 業務上理想と考える薬剤師総数及び想定業務（有床診療所（常勤医3名以上））

	常勤						非常勤					
							常勤換算					
	調査数	平均値	標準偏差	中央値	最小値	最大値	調査数	平均値	標準偏差	中央値	最小値	最大値
栃木県	n=7	0.9	0.7	1.0	0.0	2.0	n=7	0.3	0.5	0.0	0.0	1.0



図表 131 業務上理想と考える薬剤師総数及び想定業務（薬局）

	常勤						非常勤					
							常勤換算					
	調査数	平均値	標準偏差	中央値	最小値	最大値	調査数	平均値	標準偏差	中央値	最小値	最大値
栃木県	n=707	2.5	2.4	2.0	0.0	50.0	n=707	0.9	1.1	1.0	0.0	8.0
県北	n=108	2.3	1.3	2.0	0.0	9.0	n=108	0.8	0.8	0.9	0.0	5.0
県西	n=62	2.3	1.3	2.0	1.0	8.0	n=62	1.0	1.4	1.0	0.0	8.0
宇都宮	n=192	2.6	2.0	2.0	0.0	15.0	n=192	1.0	1.3	1.0	0.0	8.0
県東	n=47	2.4	1.5	2.0	1.0	8.0	n=47	0.8	1.2	0.8	0.0	7.0
県南	n=195	2.7	3.7	2.0	1.0	50.0	n=195	0.8	1.0	0.8	0.0	6.0
両毛	n=103	2.5	1.7	2.0	0.0	12.0	n=103	0.7	0.8	1.0	0.0	6.0

